

## 2016年9月度（第344回）ライフサイエンス分科会

開催日時：2016年9月15日（木） 14：00～17：00

開催場所：長井記念館 4階 （一財）日本医薬情報センター（JAPIC）4階会議室

参加人数：13名

記入者：（一財）日本医薬情報センター 井上彰

**内容：①「Smart Phone、Mobile時代のリモートアクセス-RemoteXsの紹介」**

**（iJapan株式会社 笠間和喜氏、他）**

第1部、第1部の事例紹介、第2部の流れで講演された。

第1部では、iJapan株式会社 笠間氏より、RemoteXsについて紹介を受けた。

・リモートアクセスの歴史から振り返り、図書館学術支援領域での、リモートアクセスの現状と方向性について振り返る。

・リモートアクセスは、現在では、IT技術を活用したテレワークや、クラウドサービスなどの社会の変化、学術領域においては雑誌の電子化と導入の進展などが係わっている。

・リモートアクセスにおける問題として、ログの管理やサーバなどのインフラ資源の問題、ネットワークを介した情報漏洩などがある。

・RemoteXsでは、クラウド上に管理システムを構築し、サーバの設置やソフトウェアをインストールすることなく一般的なブラウザから、施設の認証が通った学術情報やデータベースなどにアクセスし、施設内でブラウザから操作するのと全く変わらない方法で外からも認証コンテンツを利用出来るというサービスである。

・管理者側としても利用者の管理や利用統計を特別なソフトをインストールせずに、ブラウザから簡易に管理ができる。

その事例紹介として神田外語大学 吉野知義氏に導入事例として、実際にRemoteXs上のコンテンツにアクセスする実演を行った。神田外語大学では主に教員や大学院生などが多く利用していて、特に社会人学生など学内からなかなかアクセスできないユーザなどが積極的に利用しているとの事である。

・導入するにあたって、多くの出版社やデータベースの収録が可能であるが、コンテンツによってはリモートアクセスなどのライセンスが必要となるため、取捨選択しているとの事である。

・実演より、リモートアクセスによるラグは小さくなく、リモート接続で閲覧しているようには感じられず、閲覧者にとっては非常に使いやすいシステムと感じた。

第2部として、ジャーナルのブラウジングを支援する BrowZine について紹介された。

BrowZine では、図書館の契約する電子ジャーナルを共通のインターフェイスで表示し、研究者が、興味を引く情報を探しやすいような工夫が随所に盛り込まれているとの事である。

電子ジャーナルについては、同じ出版社であればインターフェイスは似ているが、出版社間で大きく異なる場合もあり、そうしたインターフェイスの差を気にすること無く情報収集に集中できることは有益と考えた。

## ②その他 話題提供

- ・ KUDOS の紹介
- ・ 情報交換（医中誌 Web、PubMed の URL の https 変更、JDream 引用情報収録など）
- ・ 図書館総合展のフォーラム（専図協・医中誌）予定
- ・ 2017 年 5 月開催の SLA の案内

以上